

# カナダからやってきた

## 青い目の交換学生

油谷ロータリークラブ  
国際奉仕委員長 友近 洋



ジム君のモチツキ

国際ロータリーは今世紀の初めの一九〇五年（明治三十八年）二月二三日、アメリカのシカゴでポールハリス等四名の人によって創立された。また各自の仕事を発見するために会合の場所を持ち廻りにし、会長や役員も一年毎に変わったことから「ロータリー」と名付けられた。日本では一九二〇年（大正九年）一月二〇日東京クラブが誕生した。一九二七年（昭和二年）七月、ロータリーは、クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際



生まれて始めて体験したジム君

奉仕の四つの道が決められた。わが油谷ロータリークラブは一九七〇年（昭和四五年）七月二七日に誕生、全国で一、〇二〇番目、中国五県で七〇番目、山口県では一七番目のクラブとして囀々の声をあげた。翌年五月九日油谷小体育館に於て国際ロータリー認証状伝達式を行い、世界のロータリーに認められるクラブとなって今日に至っている。

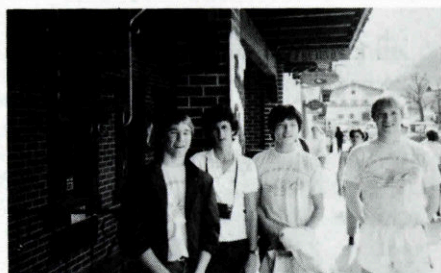
四大奉仕部門の内の国際奉仕についてロータリーは、政治・通商

とは異なり、人間としての平和と善意のために努力してきた。昨年油谷ロータリークラブ（会長福田一清）は創立一三年目にして初めて国際奉仕委員会の一つの事業である交換学生を実現することになった。目的は世界のロータリー全員が善意を交換し理解を深めることによる世界平和をうちたてることである。ユネスコの平和理念である「戦争は人の心の中に芽ばえる。人の心の中に平和の皆を築くことが世界平和の基礎である」といっているが、精神は全く同じである。この中の青少年交換委員会は、当クラブでは国際奉仕委員会の中に作られた。交換する青少年は一六歳〜一八歳までの男女即ち高校生であるが、ロータリー会員の子弟でなくともよく期間は一年間で、善意使節の役目を果たすために健康で思想穏健・学業成績も中以上、容姿端正を要求し、選考試験を行って選抜する。

この度カナダへ派遣した学生は藤井正史君（福田一清会長のお孫さんで山口市在住）で昨年四月渡加しホストクラブのプリンストンに滞在している。もうすっかり馴れて英会話もうまくなり日加親善に成果をあげている。

昨年八月に来日したジェームス・リチャード・ブラントン君（愛称ジム）は、プリンストンの近くのバーノンという人口約三万五千人位の町からやってきた。現在山口市の野田学園の二年に編入学したが、今年三年生一学期終了後七月六日に帰国することが決っている。引き受け家庭でも学園でも非常に人気のある綺麗な青い目をした好青年である。お父さんは学校の先生、お母さんは会社の秘書で、妹カレン一五歳が居る。一九六五年四月二〇日生まれで野田学園では音楽・書道・珠算・数学・日本史・生物・柔道の他日本語の時間もある。

引き受けは油谷ロータリークラブなので、毎月一回第二水曜日に例会に出席するため山口より萩までバスで、萩より入丸まで山陰線で最近では一人でやってくる。日本語もメキメキ上手になり一般生活には殆んど不自由しなくなった。



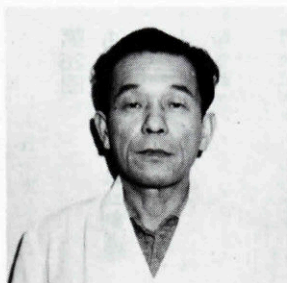
交換学生・左からアメリカ人、ブラジル人藤井正史君、ドイツ人（カナダで）

また、日本食は何でも食べ箸も上手に使う。皆が食卓につくまでは自分一人で食べ始めることはない。食事の躰は日本人の見習うことが多い。日本はとても素晴らしい国であると礼賛するが、彼にとって一生の内の青春時代を短期間ではあるが日本で生活出来たことは非常に有意義であろうし、帰国後日本の良い面、悪い面を理解して日加の親善に尽してくれるものと期待している。

カナダの総人口は、東京都の二倍位しか居ないので、誠に大らかでゆったりしている。また英語の他に仏語も使うらしいが仏語の方は忘れかけているという。英語は綺麗な米語を喋る。

日本では特別扱わず、日本のありのままの姿を見せるようにしている。私も油谷ロータリークラブ代表の親代りとして責任もあり、少しでも日本を正しく理解するように努力している。

油谷にはあまり長く滞在しないが、油谷町民とはなるべく接触するようにしたい。特に中学に於ける英語のレッスンには生の英語を聞くチャンスでもあり、希望があれば協力したい。



友近 洋さん